



前期コラボラ講演会報告

主催：コラボキャンパスネットワーク
2019年10月31日（木） 10:00～12:00



東京出身農家の嫁、南阿蘇で子育て中 ～これからの食と農業と子育てのおはなし～

講師：大津 愛梨 さん

農業、子育て、防災、景観…、多種多様な切り口のお話でしたが、まずは、大津さんの、子どもの頃からの「ユニークな育てられ方」のエピソードに、会場は楽しさにつつまれました。

大津さんが高校生の時に、『私費留学』か『結婚式にお金を使う』か、どちらかを選択することになったそうです。そして、イギリスに留学、高校の時は言語が肌呼吸ではいってくる時期、中高一貫の生活で、のびのびとすごし、留学体験が異文化の環境でも「話したい」という動機を強めたとのこと（英語を学ぶのは動機が大事）。大学3年の時に、ランドスケープを学び、風景だけでなく、生態系をどう維持するか、という視点を得て、農業を続けて農村の風景をひきつぎたい、と思うように。家族系農業で子育てをしてきた充実感は、東京での高収入だけど、高ストレスの生活には代えられないと言います。

大津さんは、とても事業発想力が高く、農業だけで終わりません。農業×観光 農業×子ども 農業×ファッションなど、ノリノリのステキな画像に、参加者は惹き込まれました。子ども向けの企画で、よく「〇〇体験」とあっても、大人の決めたことをやるばかり。子どものための「リトルファーマーズ塾」という事業の参加資格は「自分のことは自分でやれる子」。



1日のすごし方を子ども自身が決めていきます。最終日の「ファーマーズマーケット」に、何を誰にいくらで売るか、次世代の経営者として考え、販売するのです。また、塾の中で、夜は「子どもの哲学の時間」を設けて、静と動の活動を組み合わせているお話も興味深いものでした。

自然にふれ、自分自身のあたまで考え、言葉にしていくこと…、子どもの活動に大人がどう関わっていくのか、という面でも示唆に満ちたお話でした。

日本は人口も減り、食料自給率は最下位で農業就業者が高齢化する中で、今までと同じことをしていく？農業は大変っていうけど、自分たちの未来は自分たちでつくっていく、自分でもできることをみつけてやってみるという大人が増えていくことが大事、との言葉に大きな刺激をいただきました。

参加者感想

◆農業を通じて「子どもの生きる力を育てる」のが、かっこいい！と思います。子ども達の時代に何を残してやれるのか、ぼんやり考えていたのでは遅いのだと理解できました。農業も学校教育も防災も、毎日の生活の一部。みんなつながっていて影響し合っている。食べる、使うことの先まで考えて、消費しつつ生み出す社会を作りたいですね。

◆毎日をワクワクに変えていく発想力。その発想を実現する実行力。とても素敵です。その根っこに「やりたい事を否定されずに」育てられたことも影響しているのかなと思いました。
日本の原風景、日本の食、日本の農業、子どもたちの未来を守るために私たちに出来る事は何だろう。

◆市政だよりにのっていた、講演会の案内にとてもひかれて申し込みました。もう子どもも成人近く、子育ても終わりに近い感じですが、今日改めて「生きる力」というものを強く感じ、まだまだ伝えていかないといけないと考えさせられました。とても素敵な話がたくさんあり、人生を半分すぎた私には残りの生活の目標がたくさんできました。

●乳幼児子育てネットワーク・ひまわり●



◆10月16日におむつなし育児アドバイザーの古川秀子さんをお迎えし、「自然なおむつはずし」についてのお話を聴きました。

「おむつは誰のもの?」「汗とおしっこはどちらが汚い?」などの興味深いお話に加え、イメージしやすいように、人形やホーロー鍋を使った実演もありました。排泄も大切な親子のコミュニケーションのひとつであることを学びました。親子でお話しながら、楽しくおむつはずしができるとよいですね。

◆9月18日はハロハロオープンカフェでした。

たくさんの方に来ていただき、いろんなところで繋がりがあったりしたようです。ボディペインティングで遊んでいる子どもたちを眺めながら、ママたちのおしゃべりも弾んでいるようでした。

お昼からは、ベベドゥさんの赤ちゃんコンサート。素敵な歌声とピアノにみんな釘付けでした。北九州市立大学の学生さんともコラボして、楽しそうに踊る学生さんにつられてみんなも一緒に踊りました。気持ちのいいお天気に恵まれて、素敵な一日になりました。



学生さんとコラボ♪

◆オープンカフェでは、踊ったり歌ったり、普段のコラボ活動では行わないことができ新鮮でした。知っている曲は子どもたちも一緒に歌って踊って、こちら側に興味を持ってきているのがわかったので、とても楽しんで参加することができました。

次は学生が主体となって皆さんに楽しんでもらえるような企画を考えたいと思います。

コラボラ学生部 地域創生学群3年 佐藤 樹



*副学長の中尾泰士先生と天体観測。今か今かと、お月様を待ちました。見えたかな?

●高齢社会をよくする北九州女性の会●

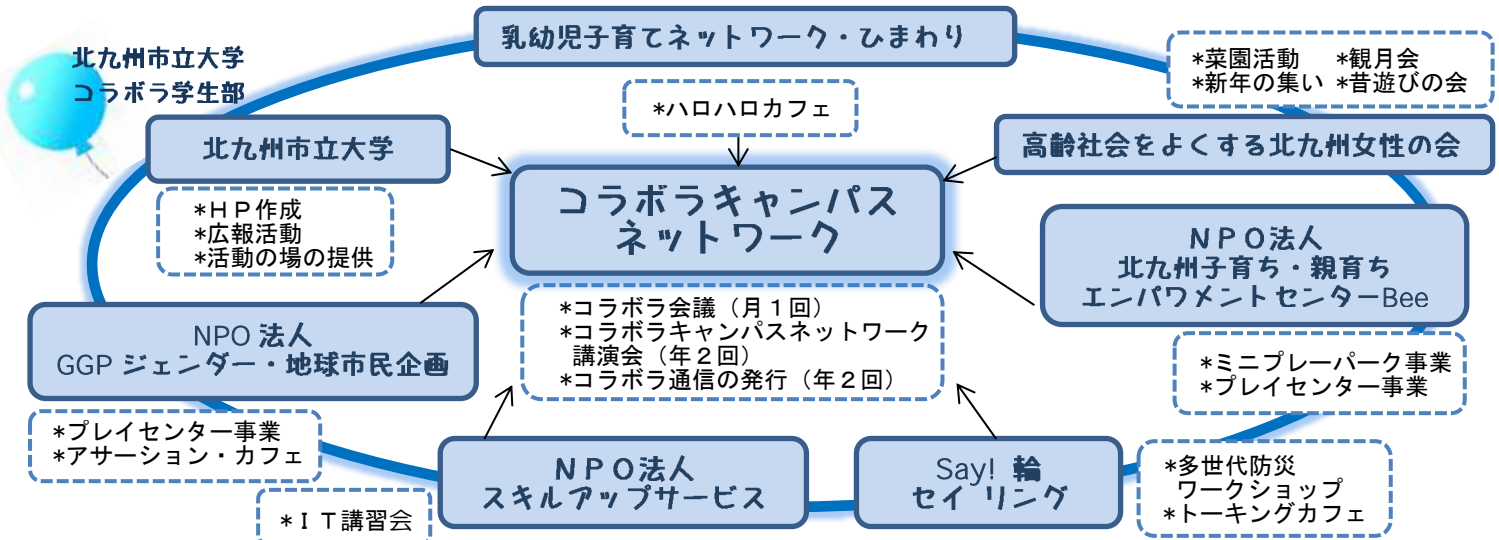
◆10月11日(金) 14回目の観月会は、曇り空でしたが時折顔を出す朧月がみんなを優しく照らしてくれました。

お月見団子やお芋・栗の入った「高齢社会をよくする北九州女性の会」手作りの秋の味覚セットを味わいながら、多彩なプログラムを楽しみました。

スタードームの灯りをバックに、北九州市立大学のコラボラ学生部、よさこいサークル灯炎(とうえん)、西南女学院大学短期大学部保育科の学生さんによるパフォーマンスに子どもたちは大喜び。見守る大人たちも久しぶりの友人との再会や子どもたちの成長ぶりに目を細め、楽しい交流の時間となりました。手元が暗い中でもIT技術を駆使した「スキルアップサービス」のオリジナルポストカードは、良い記念になりました。

コラボラキャンパスネットワークとは?

◆「北九州市立大学」/「乳幼児子育てネットワーク・ひまわり」/「NPO法人北九州子育て・親育ちエンパワメントセンターBee」/「高齢社会をよくする北九州女性の会」/「NPO法人GGPジェンダー・地球市民企画」/「NPO法人スキルアップサービス」/「Say! 輪」の計7団体が取り組む、多世代交流・地域づくりに関する協働事業をコーディネートするネットワーク団体です。普段なかなか接することの少ない学生と地域の方々が、北九州市立大学キャンパスを拠点に交流できる活動やイベントを展開中です。



小倉南区親子ふれあいルーム“さざん”

コラボラキャンパスネットワークの中から立ち上げた実行委員会が、北九州市の委託を受けて運営しています。